



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月10日

上場会社名 株式会社ヨコオ 上場取引所 東  
 コード番号 6800 URL https://www.yokowo.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役兼執行役員社長 (氏名) 徳間 孝之  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員専務 (氏名) 深川 浩一 (TEL) 03-3916-3111  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月10日 配当支払開始予定日 2022年12月12日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	40,207	29.8	3,507	75.1	6,538	196.9	4,179	173.7
2022年3月期第2四半期	30,969	14.2	2,003	△2.3	2,202	28.3	1,526	20.0

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 6,237百万円(274.3%) 2022年3月期第2四半期 1,666百万円(18.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	179.28	—
2022年3月期第2四半期	66.86	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	76,472	50,063	65.4
2022年3月期	66,870	44,328	66.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 49,987百万円 2022年3月期 44,272百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	18.00	—	22.00	40.00
2023年3月期	—	25.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2023年3月期第2四半期末及び2023年3月期(予想)期末配当の内訳 普通配当22円00銭 記念配当3円00銭

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	80,000	19.7	7,400	58.0	9,600	47.0	6,250	34.0	268.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期2Q	23,849,878株	2022年3月期	23,849,878株
2023年3月期2Q	538,828株	2022年3月期	538,808株
2023年3月期2Q	23,311,052株	2022年3月期2Q	22,832,858株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の本資料に記載されている業績見通し等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における売上高は、すべてのセグメントが前年同期比で増収となった結果、上期として過去最高の40,207百万円(前年同期比+29.8%)となりました。営業損益につきましては、無線通信機器セグメントが前年同期比で減益となり、車載通信機器セグメントが損失となりましたが、回路検査用コネクタセグメントにおける大幅な増益により、3,507百万円の利益(前年同期比+75.1%)となりました。経常損益につきましては、円安による為替差益2,940百万円を計上したことなどにより、6,538百万円の利益(前年同期比+196.9%)となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益につきましては、経常増益などにより、4,179百万円の利益(前年同期比+173.7%)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

## ① 車載通信機器

当セグメントの主要市場である自動車市場は、第1四半期において世界的な半導体不足・部品供給停滞などの影響が継続したものの、第2四半期以降は半導体不足が徐々に緩和され、販売が改善傾向にあります。地域別では、日本国内市場向けの販売台数は前年同期比で減少したものの、米国/中国/Aセアン市場においては第2四半期以降、旺盛な需要を背景に販売台数が増加しました。

このような状況の中、主力製品であるシャークフィンアンテナ/GPSアンテナをはじめとする自動車メーカー向けアンテナの海外販売は、円安効果及び第2四半期における自動車生産回復などにより増加しました。

この結果、当セグメントの売上高は22,162百万円(前年同期比+17.6%)と、前年同期比で増収となりました。セグメント損益につきましては、原材料価格・海上運賃の高止まりによるコストアップ、現地通貨高に伴う中国/ベトナム生産拠点における労務費などの増加があったものの、コストアップ分の一部回収や、在庫評価に係る未実現利益控除額の減少などにより第2四半期における損失は大幅に縮小し、1,475百万円の損失(前年同期は488百万円の損失)となりました。

## ② 回路検査用コネクタ

当セグメントの主要市場である半導体検査市場は、PC/スマートフォン向けの需要減少により減速傾向にありますが、サーバー/自動車向けの需要が底堅く推移したことに加えて、半導体メーカーによる半導体不足解消に向けた供給能力拡大などを背景に検査需要は堅調に推移しました。

このような状況の中、当社グループの主力製品である半導体後工程検査用治具の販売は、ロジック半導体検査用ソケット・高周波検査対応ソケットの受注増及び円安効果などにより、前年同期を上回りました。半導体前工程検査用治具の販売は、周辺機器を含めてワンストップソリューションでサービスを提供するターンキービジネスが前年同期比で減少したものの、高周波電子部品検査用MEMSプローブカード(YPX)の販売は受注増により、前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は13,054百万円(前年同期比+73.1%)と、前年同期比で大幅な増収となりました。セグメント損益につきましては、原材料価格上昇によるコストアップはあったものの、増収に伴う増益に加え円安効果などにより、4,388百万円の利益(前年同期比+150.0%)となりました。

## ③ 無線通信機器

当セグメントの主要市場である携帯通信端末市場は、世界的な半導体不足の影響によりスマートフォンの出荷台数が低調となったものの、ウェアラブル端末は多様化・高機能化により今後の成長が見込まれています。POS端末市場は、物流/製造を始めとする幅広い業界において、情報管理による業務効率化実現の観点から着実な成長を続けているほか、産業機器などの他市場も成長が期待されています。

このような状況の中、微細スプリングコネクタを中核製品とするファインコネクタ事業におきましては、半導体不足の影響による顧客の生産調整などの影響により、ワイヤレスイヤホンなどウェアラブル端末向けの販売が減少したものの、POS端末向けの販売増及び円安効果などにより、売上高は前年同期を上回りました。

当セグメントに含めております医療・デバイス事業につきましては、主要顧客向け部品販売・ユニット製品販売がともに堅調に推移したことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は4,989百万円(前年同期比+8.8%)と、前年同期比で増収となりました。セグメント損益につきましては、ファインコネクタ事業における人民元高などによる中国生産拠点での労務費比率の上昇や事業構成変化などにより、593百万円の利益(前年同期比△19.4%)となりました。

## (事業セグメント別連結売上高)

(単位：百万円、%)

	前年度上期 自 2021年4月 至 2021年9月	前年度下期 自 2021年10月 至 2022年3月	当年度上期 自 2022年4月 至 2022年9月	前年同期比	前半期比
	売上高	売上高	売上高	増減率	増減率
車載通信機器	18,843	21,238	22,162	+17.6	+4.4
回路検査用コネクタ	7,540	10,084	13,054	+73.1	+29.5
無線通信機器	4,585	4,555	4,989	+8.8	+9.5
合計	30,969	35,878	40,207	+29.8	+12.1

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産は、現金及び預金増加3,300百万円、売上債権増加888百万円、棚卸資産増加2,151百万円、有形固定資産増加1,750百万円、投資その他の資産増加1,062百万円などにより、76,472百万円(前連結会計年度末比9,602百万円の増加)となりました。現金及び預金の増加は、円安に伴う円貨換算額増加及び主に回路検査用コネクタセグメントにおける売掛金回収増加によるものです。また、有形固定資産の増加は、回路検査用コネクタセグメントにおける受注増に対応した国内工場の生産設備増強及び分工場の建設並びに車載通信機器セグメントにおけるフィリピン工場稼働開始に伴う生産設備導入などによるものです。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、仕入債務増加1,232百万円、賞与引当金増加353百万円、短期借入金増加471百万円、未払法人税等増加705百万円、その他流動負債に含まれる設備未払金増加573百万円などにより、26,409百万円(前連結会計年度末比3,867百万円の増加)となりました。仕入債務の増加は、海外生産拠点における現地通貨高に伴う円貨換算額増加並びに車載通信機器及び回路検査用コネクタの両セグメントにおける受注増に伴う部材等の仕入増加によるものです。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、為替換算調整勘定増加1,911百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益4,179百万円の計上、配当金支払512百万円などにより、50,063百万円(前連結会計年度末比5,734百万円の増加)となりました。

## (自己資本比率)

当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は65.4%(前連結会計年度末比△0.8ポイント)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績見通しにつきましては、予想の前提となる条件を次のとおり想定しております。

- ・新型コロナウイルス感染症は変異株による再拡大などの懸念がありますが、当社生産拠点におきましては感染防止対策を最重点として徹底することにより、安定稼働できるものと想定しております。
- ・当社の主要市場である自動車市場につきましては、世界的な半導体不足・部品供給停滞の影響は徐々に緩和され、緩やかに改善していくものと想定しております。
- ・半導体検査市場につきましては、サーバー／自動車向けの需要は底堅く推移しておりますが、PC／スマートフォン向けの需要が減少するなど懸念材料が出てきており、下期以降は若干の減少を想定しております。
- ・携帯通信端末市場につきましては、スマートフォンの販売が減少傾向にあるほか、世界的な半導体不足の影響によるPOS端末など電子機器端末の伸び悩みが見込まれ、当期中は継続するものと想定しております。
- ・先端医療機器市場につきましては、一部部材が不足する懸念はありますが受注は増加傾向にあり、下期以降は堅調に推移するものと想定しております。

このような前提のもと、通期の業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の実績及び直近の受注見通しを踏まえ、全社売上高及びセグメント別売上高を下表のとおり修正いたします。営業利益につきましては、回路検査用コネクタセグメントにおいて前回予想に比べて若干の減益が見込まれますが、車載通信機器セグメントにおいて、海上運賃の沈静化や生産現場における大胆なコスト削減及び販売価格の見直しなどにより大幅な損益改善が見込まれることから、下表のとおり修正いたします。経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、想定為替レート1米ドル＝140円のもと、為替差益が630百万円縮小することなどを見込み、下表のとおり修正いたします。以上により、売上高・各利益ともに過去最高を更新する見通しです。

なお、下記の業績予想の前提となる為替レートは、本年11月以降当期末まで1米ドル＝140円(前回予想時は1米ドル＝130円)としております。

通期(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：百万円、%)

	前回予想 (2022年8月4日公表)	修正予想	増減	増減率
売上高	76,000	80,000	+4,000	+5.3
車載通信機器	41,600	45,900	+4,300	+10.3
回路検査用コネクタ	24,800	24,500	△300	△1.2
無線通信機器	9,600	9,600	—	—
営業利益	7,000	7,400	+400	+5.7
車載通信機器	△2,000	△1,450	+550	—
回路検査用コネクタ	8,000	7,800	△200	△2.5
無線通信機器	1,000	1,050	+50	+5.0
経常利益	8,000	9,600	+1,600	+20.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,500	6,250	+750	+13.6

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,816	17,117
受取手形及び売掛金	13,057	13,946
商品及び製品	8,900	9,907
仕掛品	742	633
原材料及び貯蔵品	6,037	7,292
その他	1,992	2,349
貸倒引当金	△8	△8
流動資産合計	44,540	51,237
固定資産		
有形固定資産	16,544	18,295
無形固定資産	1,162	1,253
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	680	722
その他	3,942	4,963
投資その他の資産合計	4,623	5,685
固定資産合計	22,330	25,235
資産合計	66,870	76,472
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,991	9,223
短期借入金	5,570	6,041
未払法人税等	1,476	2,182
賞与引当金	871	1,224
その他	4,274	5,334
流動負債合計	20,184	24,005
固定負債		
長期借入金	1,600	1,600
退職給付に係る負債	368	387
その他	388	416
固定負債合計	2,357	2,403
負債合計	22,541	26,409
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,819	7,819
資本剰余金	7,804	7,804
利益剰余金	25,950	29,627
自己株式	△634	△634
株主資本合計	40,939	44,616
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	430	586
為替換算調整勘定	2,635	4,546
退職給付に係る調整累計額	267	237
その他の包括利益累計額合計	3,332	5,370
非支配株主持分	56	76
純資産合計	44,328	50,063
負債純資産合計	66,870	76,472

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	30,969	40,207
売上原価	24,947	31,569
売上総利益	6,021	8,637
販売費及び一般管理費	4,018	5,130
営業利益	2,003	3,507
営業外収益		
受取利息	10	20
受取配当金	19	30
持分法による投資利益	21	7
為替差益	176	2,940
その他	24	103
営業外収益合計	252	3,102
営業外費用		
支払利息	25	32
新株予約権発行費	18	—
その他	9	39
営業外費用合計	53	71
経常利益	2,202	6,538
特別利益		
固定資産売却益	1	6
特別利益合計	1	6
特別損失		
固定資産売却損	1	2
固定資産除却損	3	31
事業構造改善費用	—	174
和解金	—	161
特別損失合計	5	368
税金等調整前四半期純利益	2,199	6,175
法人税、住民税及び事業税	710	2,106
法人税等調整額	△46	△117
法人税等合計	664	1,988
四半期純利益	1,534	4,187
非支配株主に帰属する四半期純利益	7	7
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,526	4,179



四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,534	4,187
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20	156
為替換算調整勘定	197	1,923
退職給付に係る調整額	△45	△29
その他の包括利益合計	132	2,050
四半期包括利益	1,666	6,237
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,658	6,217
非支配株主に係る四半期包括利益	8	19

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,199	6,175
減価償却費	1,562	1,818
賞与引当金の増減額 (△は減少)	325	330
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	△0
退職給付に係る資産及び負債の増減額	△20	△67
受取利息及び受取配当金	△30	△50
支払利息	25	32
為替差損益 (△は益)	△76	△1,208
持分法による投資損益 (△は益)	△21	△7
固定資産売却損益 (△は益)	△0	△4
固定資産除却損	3	31
売上債権の増減額 (△は増加)	817	889
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,358	△450
仕入債務の増減額 (△は減少)	865	△1,127
その他	△3	153
小計	2,290	6,512
利息及び配当金の受取額	30	50
利息の支払額	△21	△26
法人税等の支払額	△766	△1,425
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,533	5,112
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,922	△2,003
有形固定資産の売却による収入	4	41
投資有価証券の取得による支出	△10	—
無形固定資産の取得による支出	△220	△254
関係会社株式の取得による支出	—	△484
その他	△107	△216
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,255	△2,916
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	300	—
長期借入金の返済による支出	△1,800	—
株式の発行による収入	2,853	—
リース債務の返済による支出	△159	△176
配当金の支払額	△439	△511
自己株式の取得による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	754	△687
現金及び現金同等物に係る換算差額	160	1,793
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	192	3,300
現金及び現金同等物の期首残高	15,295	13,816
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,487	17,117

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	車載通信機器	回路検査用コネクタ	無線通信機器	
売上高				
日本	6,877	863	1,390	9,132
欧米	7,627	1,203	399	9,230
アジア	4,338	5,473	2,794	12,606
顧客との契約から生じる収益	18,843	7,540	4,585	30,969
外部顧客への売上高	18,843	7,540	4,585	30,969
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	18,843	7,540	4,585	30,969
セグメント利益又は損失(△)	△488	1,755	736	2,003

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と同額となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	車載通信機器	回路検査用コネクタ	無線通信機器	
売上高				
日本	6,458	868	1,525	8,852
欧米	9,901	1,867	467	12,236
アジア	5,803	10,318	2,996	19,118
顧客との契約から生じる収益	22,162	13,054	4,989	40,207
外部顧客への売上高	22,162	13,054	4,989	40,207
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	22,162	13,054	4,989	40,207
セグメント利益又は損失(△)	△1,475	4,388	593	3,507

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と同額となっております。